

飲み合わせの悪い例として、

① ウルソデオキシコール酸錠（肝臓の働きを改善させる薬）とグーフィス®錠（便秘を改善させる薬）

② グレープフルーツジュースと一部の降圧薬等が挙げられます。

①は薬と薬の例です。ウルソデオキシコール酸錠は、主に肝臓で作られる胆汁酸の腸管での再吸収を促すことで肝臓の働きを改善させます。

しかし、グーフィス®錠は、腸管での胆汁酸の再吸収を妨げるため、一緒に飲むことでウルソデオキシコール酸の効果低下してしまいます。

②は食品と薬の例です。グレープフルーツジュースは小腸・肝臓の酵素の働きを阻害することが知られています。降圧薬は主にその酵素で分解されるため、一緒に飲むことで、降圧薬の分解が妨げられ、長く体内に残るため薬の効果が効きすぎてしまいます。



お薬手帳の活用

薬が重複したり増えすぎたりすることを防ぐために、お薬手帳を活用しましょう。

お薬手帳は1冊にまとめておくことで、かかりつけの医師や薬剤師に使っている薬を伝えやすくなり、薬の飲み合わせの確認もしやすくなります。

最後に

ポリファーマシーについて説明しましたが、薬が多いから、飲み合わせが良くなさそうだからといって、自己判断でやめたり、減らしたりするのはよくありません。

薬によっては急にやめると病状が悪化したり思わぬ副作用がでることがあります。

必要な薬は飲み続けていただく必要がありますので、薬が多すぎる・飲み合わせが不安など気になることがあれば医師・薬剤師にご相談ください。

《著者紹介》

東海大学医学部付属病院薬剤科

肝臓病教室担当

木我友紀子、廣原成

